

平成19年第3回小金井市はけの森美術館運営協議会  
議 事 録

開催日時 平成20年3月28日（金）午後6時～7時20分  
開催場所 小金井市前原暫定集会施設2階 B会議室  
出席者 委員：鉄矢悦朗委員長、宮村令子副委員長、千村裕子委員、  
淀井彩子委員、富士道正尋委員、小柳 清委員  
事務局：横田佳世学芸員、松山ひとみ学芸員、奥友絵里子学芸  
員、天野達彦事務担当

**議事内容**

**【鉄矢委員長】** 平成19年度第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開催いたします。

今のを開会のあいさつとします。議事進行は私がやります。

まず第2回の運営協議会の議事録について、今見ていただいておりますけれども、この辺がおかしいというところがありましたら、手書きにて変更して、事務局にお渡してください。

では、議事に入らせていただこうと思います。

平成20年度の展覧会について、事務局から報告があります。お願いします。

**【事務局(天野)】** では、資料の説明をさせていただきます。その前に資料の確認をさせていただきます。

今、委員長から説明のありました第2回運営協議会議事録の内容の確認をいただきたいと思います。本日、お持ち帰りいただいて、後日ご返送下さい。

本日の資料の確認ですが、A4の縦のはけの森美術館の平成20年度展示計画案が1部。小金井市立はけの森美術館の開館から展覧会及び入館者数についてというB4の横の資料が1部。3番目にA4の縦の数枚の資料は「Art-Full 2 CIRCULATION 天から地から」の実施報告です。これにつきましては、概略の内容を今回、資料としてお出ししています。後ほど、学芸員から説明を申し上げますが、実施報告の本編は、本日持ってきておりますので、もし必要であれば委員に回覧して見ていただきたいと思っております。それから4点目がB4の横の3枚つづりの小金井市立はけの森美術館入館

者数、グッズ販売数及び売上金の累計ですが、これは参考という形で、きょう、お持ちしました。後ほど、また説明をさせていただきます。

では、まず一番目の資料は、はけの森美術館平成20年度展示計画案です。20年度の展示計画ですが、最初に2008年所蔵作品展Ⅰ。これは2007年度の事業ということで、明日3月29日から6月1日まで56日間開催します。今日の時点で展示の準備が終わっており、明日午前10時から開館いたします。展示室はこれまで、パーテーションで仕切って展示していましたが、今回、学芸員の工夫でパーテーションなしで、1階のLの字型の展示室を1部屋という形で展示をしてございます。

2番目の展示計画は、2008年所蔵作品展のⅡ。これは20年度事業になりますが、所蔵作品展Ⅰが終わった後、6月24日から10月5日まで90日間、開催する予定でいます。この期間の10月1日から10月5日に無料開放日を2日間設定と備考欄に記入してありますが、小金井市の市制50周年の記念ということで、無料開放を行う予定です。日にちは今検討しており、10月1日が平日なものですから、平日を避けて土曜日、日曜日のほうが良いのではないかと考えておりますがまだ確定をしておりません。したがって、1日から5日の間で無料開放日を2日間設定するという表現しております。

3点目の展示計画は、企画展で松本市美術館所蔵の「田村一男作品展」。これは仮称ですが、10月21日から12月7日の42日間開催の予定です。

4番目の展示計画が2008年の所蔵作品展のⅢということで、12月23日から3月8日の61日間開催の予定です。

最後の展示計画が、2009年度の所蔵作品展Ⅰということで、これは2008年度の事業になりますが、3月24日からの開催予定で、終了の日程については現在の段階では未定です。20年度の展示計画案につきましては以上の形で進めていきたいと考えています。以上です。

**【鉄矢委員長】** ありがとうございます。

今の20年度の展覧会について、今のは展示計画についてのお話ですね。

**【事務局(天野)】** そうです。

**【鉄矢委員長】** 引き続き、資料、B4の横長の展示及び入館者数について説明願います。

**【事務局(天野)】** では、2点目の小金井市立はけの森美術館の開館から

の展覧会及び入館者数について説明します。この資料は、小金井市議会3月定例会の一般質問並びに予算特別委員会の中で資料要求があり、市議会に提出した資料を当運営委員会の資料としてお出ししました。

内容ですが、平成18年4月に開館以来、どういう作品展をやって、その期間はいつからいつまでで、テーマは何で、入館料、いわゆる入館者数と観覧料と図録等の売り上げを調べたものです。展覧会が2006年の2006年所蔵作品展のⅠから、18年度につきましては5つ。19年度は4つ、2007年所蔵作品Ⅰ、所蔵作品Ⅱ、それから「堂本印象美術館展」、「Art-Full2展」ということで、2年間において行った展覧会の内容と入館者数でございます。

一番最後に資料でご説明をする予定でおりますが、入館者数は開館以来、右肩上がりが増えており、また来館される方から良い印象のお言葉をたくさんいただいていますし、置いてある書き込みノートに非常にありがたいお言葉をたくさん書き込んでいただいています。今日はお持ちしていませんが、市民の方の認識度が上がって来ており、認知度が上がっているなということで資料をお出ししました。

以上でございます。

**【鉄矢委員長】** はい。今、表の一番下にある「Art-Full2展」も20年度の展覧会ですよね。そうですね。ですので、こちらの実施報告も終えて、それから質問に……。

**【横田学芸員】** それでは続きまして、「Art-Full2 CIRCULATION 天から地から展」について、実施報告をさせていただきたいと思います。今年度も昨年度に続きまして、子どもたちのワークショップ及び鑑賞教育を含めた形での展覧会となりました。では、資料の最初のほうからごらんいただければと思います。

入館者数なんですけれども、今年度、1月12日から3月12日は、作家2名の「Art-Full2 CIRCULATION展」でございまして、中1日において、3月14日から19日は子どもたちのワークショップ作品及び公開ワークショップを含めた展覧会になっております。トータルで見ますと、入館者数は1,382名で前年度に比べまして、少し印象が上がったのか、増えてまいりました。

次に展覧会の掲載報道一覧をごらんください。広報活動はいろいろなとこ

ろに出しているんですけども、今回、朝日タウンズやパドのような地方版コミック版が中心になってしまいました。あと朝日新聞と毎日新聞のほうでは、朝日新聞は展覧会情報のところで3回ほど取り上げていただいたことと、毎日新聞では記事になっております。雑誌の『美術手帖』で、これも簡単な、写真つきではありますけれども、展覧会情報を出していただいております。あと、アートナビ等インターネット系なんですけれども、ここからJ-C O Mのホームタウンの中で展覧会有一些という情報を説明して、3分ぐらいのものですが、1週間ほど流れていました。

続きまして、次のページをおあげください。関連イベント報告をさせていただきます。1月26日、多田正美さんによるサウンド・エンカウンターは、30名の方がいらっしゃいました。また2月2日に柴田敏雄さんの子どものワークショップ、それから同日で多田正美さんのギャラリートークがございました。柴田さんのほうは子どもが10名プラス数名、例えば急に欠席した子どもがいた場合のために、少し多目にとっていたんですけども、2名それならば全員やってあげようということで、初日に二、三回やっております。あと2月2日、多田正美さんのギャラリートークに関しましては、興味のある方が作家さんと一緒に語りながら、絵をかき……、写真を鑑賞するという形でございました。3月14日、多田正美による子どもワークショップなんですけれども、これは「Art-Full 2 + 子どもたち展」の中での公開ワークショップとなりまして、子ども6名となっております。もう少しいたんですけども、当日、急に熱を出してしまって欠席という形で6名でのワークショップ参加となりました。

開催期間中に行われた学芸員によるギャラリートークなんですけれども、これはギャラリートークとして、チラシに載せてあったのは2回なんですけど、そのほかに複数の団体でいらっしゃったりとか、あと、しばらくたたずんでいらっしゃる方から説明を求められた場合にそれができる体制、つまり21回から2回引いて19回それぞれやっているということでございます。

最後のページになりますが、「Art-Full 2 作品展」の市内小学4年生鑑賞教育についてのご報告をさせていただきます。昨年度は2校の186名の参加だったんですが、今回は市内の5校が参加いたしまして、合計406名の参加になりました。これは406名の小学生たちが各クラスごとにやってきて、鑑賞する形で、実施の内容につきましては2番の、あいさつの後に説明

をし、まず児童に自由に鑑賞させる時間を設けております。その後、ワークシートを配付しまして、ワークシートをその場所で記入する形をとりまして、最終的にワークシートの発表を子どもたちの中ですぐに手を挙げてらって、してもらったということになります。それで最後に何人かに発表していただく方法でやっております。

全体を通して、問題点及びまとめなんですけれども、多少各学校の先生方、当然図工の先生、担任の先生、父母の方がおいでになられていたんですが、ワークシートによって感じたことを言語によって表記するという表現活動が、そこでなされていたことに非常に評価をいただいております。

ワークシートを書き終わった段階で何名かが発表することによって、ほかの子どもたちがどんなことを考えているのか、自分と全く違う意見だったりすることを、それぞれ言い合うことで、その感覚や意見を、お互いに認め合う体験ができたというところで、一定の高い評価をいただいたところでございます。

あと今年度になるんですけれども、時間割の関係で、多少短い時間での来館となってしまって、常設展にある中村研一室のほうが見ることができなかったのが残念だという声をいただいたこと。あとバスを使用しなくては美術館に来ることが難しい小学校が非常に多かったということがございます。あと鑑賞教育の日程が前年度にわかっていたら授業に組み入れやすいんですがというお話もいただいております。これらにつきましては、また今後どのような形で、どのように解決していけばいいのかが課題になっております。

以上をもちまして、簡単ではございますが、「Art-Full 2 作品展」のご報告とさせていただきたいと思っております。また子どもたちの鑑賞教育につきましては、どのような感想を持ったのかというのの原本が、こちらにございますので、回覧で見ただけであればと思っております。

**【鉄矢委員長】** ありがとうございます。議事次第にあります平成20年度展覧会についてに関して、3つの資料からはけの森美術館、平成20年度展示計画案、それから開館からの展覧会及び入館者についての資料、そしてCIRCULATIONという展覧会の実施報告を3つ続けてやっていただきました。

委員の皆様から、ご質問とかご意見とかございましたら、どの資料に基づいているのかということをお話しいただきながら、言っていただければ……。

**【事務局(天野)】** すいません、委員長。よろしいですか。

最後のその他の部分で予算の関係について説明をする予定でいるのですが、所蔵作品、いわゆる20年度の事業と予算の関係を、補足説明させていただいたほうがわかりやすいかなと思います。

**【鉄矢委員長】** 次第にあります20年度展覧会についてというものについての予算の裏づけもくっつけてということですか。

**【事務局(天野)】** はい。ちょっと資料説明したほうがわかりやすいかなということですか。

**【鉄矢委員長】** わかりました。今、こういうお話がありますけれども、予算の話を知ると予算の話もまた頭が開いちゃうので、今やった事実について、まずご質問をお聞きしたいかなと思っておりますけれども、なければ予算との比較とかいう話もありますけれども。

**【事務局(天野)】** とりあえず事業の関係についての予算の組み方の考え方を、ちょっと補足しておいたほうが良いと思ひまして。

**【鉄矢委員長】** よろしいですか。

**【事務局(天野)】** ちょっと私のほうで思ったことですから。予算書は、また後ほど、お聞きいただくということで、よろしいですか。

**【鉄矢委員長】** 皆さん、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

**【事務局(天野)】** まず18年度、19年度の2か年については、横長の資料の中で、企画展と所蔵作品展が2展ずつという形で行って来ました。しかし20年度については、企画展が1本で、所蔵作品展が3展となっています。実は企画展が1本減って、所蔵作品展が1本増えたんですが、その考え方としましては、ここまで開館以来2年間、美術館を運営して来ましたが基本的な部分をさらに充実していく必要があるということで、20年度につきましては、所蔵作品展を3本にして、企画展を1本ということで、どちらかという、調査のほう、所蔵作品のリスト等の整備がまだできてないんです。そちらを重点的にやりたいということで、このような展示の計画もしています。

予算につきましても、調査費を計上したところ予算化されまして、考え方としては、これまでの企画展二つと所蔵作品展二つということから、20年度については所蔵作品展三つの企画展一つ、ちょっとステップダウンしているような感じがされるかと思ひますけれども、さらに力を蓄えるためのこと

で、こうなっていることをご理解いただければと思います。補足になりますけれども、以上です。

**【鉄矢委員長】**           ありがとうございます。

私もちょうとっとうっかりしてましたけれども、はけの森美術館の平成20年度の事業計画案は出てこないんですか。結局、今お話があった、展示はこれをやります。研究はこれをやります。何がこれをやりますというのがあると、美術館が展示するだけの箱ものじゃないよといわれていること自身が、ここに出てくる資料が、もしこういう展示計画だけですよという、やっぱり展示が中心の美術館なんだなという格好になりますけれども、研究をするんだと、研究の予算をつけたんだ。研究に対して20年度は、こういうウエートを置いてくるから、こういうふうにするんだよというご説明だと思うんです。そうするとやはり運営委員会のほうに……、今回はこれでいくんだと思いますけれども、資料としてはやはり事業計画という格好のほうが適した……。

**【事務局(天野)】**       本来ですと運営協議会は4回開催の予算化をされてわけですけれども、本来ですと、事業計画は予算編成に入るのが10月、11月ぐらいからなんです。そうすると来年の、いわゆる次年度の計画を8月とか9月ぐらいに立てて、運営委員会にお諮りをして、その上に予算を組んでいくというのが本来の形ではないかなと、私は個人的には思っております。

それで今年度は私の経験がなかったということがあって、今後そういう中で、事務局から、今委員長がおっしゃるような事業計画なりをお示しして、ご意見をいただいてつくっていくべきかなと思っております。

**【鉄矢委員長】**       私も、一委員として発言させていただくと、ここでやったやらないでつるし上げても……、じゃなくて、今立ち上がりのところで、しっかりした運営委員会と美術館の関係をつくるにしても、そういった事業計画をどういう段階でチェックして、この美術館が20年度の年度目標みたいなものが、自然にこういうふうに、今事務局から説明があったように、調査に対してやるんだと。あとどのぐらい、実際所蔵品の整理ができてないのかという概観も我々は今知りません。で何点所蔵があつて、それが所蔵するという点数確認さえされているのか。それともまだ住んでいらっしゃる方もいらっしゃるの、その辺があいまいな部分もあるのかもしれないし、運営委員会として何を、チェック機能として見ていかなきゃいけないかというのを、今、再確認しましたので、来年度の委員たちには、ぜひその辺をしっ

かり確認していくような目を持っていただきたいと思います。発言を閉じます。

ご質問は……。

**【千村委員】** 質問じゃないですけども。

**【鉄矢委員長】** ご意見。

**【千村委員】** 今の説明を聞いていて、所蔵作品の整備云々と聞くと、ものすごくいっぱい作品があるんだな、きっと個人が所蔵していたのを訪ねて行って整備するのかななんて漠然とした想像だけが膨らんで、なかなかそういうものを訪ねあぐねるのが大変なのかななんて思ったりしていました。実際はどうなのか。

**【鉄矢委員長】** 具体的には、どんな行動が予定されているんですか。

**【松山学芸員】** 今、現在は寄贈された作品が780点あるんですけども、それに対する資料カードというのが、旧美術館からそのまま借りている状態のままで、現段階のはけの森美術館としての調査カードは全く皆無な状態なので、とりあえず作品1点1点に対する調査をまず始める。その下準備に関しては、今少しずつやっているところなので、現在所蔵している780点の作品の、まず油彩の分から……。

**【鉄矢委員長】** 以前の部分の持っているのは借りているカードと。それは寄附はされていないし、美術館としては一応疑うという表現はあれかもしれないけれども、所在を確認して、真偽をしっかりと確かめていって、自分のところの美術館としてラベルを張れる精度を持った資料カードを整理していくということですね。

**【松山学芸員】** 搬入しているときに、1回、リストと作品を照らし合わされて所蔵庫に入っているの、ないということはないんですけども、ただ、その作品がどういった作品で、年代だったりとか、そういったものも実はちょっとあいまいな部分があったりしますので、そういうのも調べればわかることがまた出てくるので、作品一つ一つに対して、はけの森美術館としての調査カードをつくる。本来であれば、オープン前にやっておくべき仕事。

**【鉄矢委員長】** 780点というのは、どれぐらいで上がるものなんですか。というのは、すごくわかりにくいと思うんですが、日常の仕事をしながら。ただ、年度計画は私、大嫌いなほうなんですけれども、でもやっぱり目標を立てて、これを仕上げていく。これは2年間ぐらいかかって780点を整理していくという規模なのか、今年度ぐらいで……。



【松山学芸員】 いや、それはおそらく無理なので、多分3年ぐらいかけて。でも、今年はどうか……。

【鉄矢委員長】 来年度ですね。

【松山学芸員】 昨年度は油彩をとりあえず始めようと。その後、素描のほうは量が400点ぐらいと多いので、時間はかかると思います。

【鉄矢委員長】 ということだそうです。

【千村委員】 専門的なことはわからないんですが、そういう作品は、かいた年代みたいなのは、ちゃんと書かれたりしているものなんですか。そこがわからなくて、それを検証していくみたいなのもあるんですか。

【松山学芸員】 そうですね。画面に何年にかいたというふうに書いてあれば、画家自身が書いたカードと一緒に載っていれば、それは確実なんですけれども、ただ、研一の作品に関しては、そういう記載が少なかったりもして、結局は不明になっているものがたくさんあって、そんな中でも例えば船に乗って海外に行っていてという新聞の記事があったり、そのときに書いていることが確実なものがやっぱりあって、そういうのに対しても、お借りしている台帳には保有先が不明というふうになっていたりするので、それを簡単にではないですけれども、わかる部分というのもあります。

【鉄矢委員長】 ありがとうございます。

私から質問なんですけれども、展覧会の入館者数について、開館からというのが表になっていますけれども、入館者数が増えていく工夫は何なのかという分析はどういうふうにお考えですか。多分、工夫なさっているから増えているんだと思うんですけれども、ただ工夫したじゃなくて、市内が増えたのか市外が増えたのか、市内ではある地域は全然来ないとかいうのも出てくるのかなと思うんです。

我々は、入館者数ではなくて、狭い意味でいうと、市民に対してのサービスの提供というのがあるとすると、どのエリアから来ていないんだったらもう少しそっちに声をかけてみようかなとかいうのもあるのか、このままやっていると、ただ入館者数を増やそうというものだけに見えてしまうんで、そういう作戦ではないはずの美術館で、目的を持ってやっている美術館の主たる目的が、ただ単に数字のほうに行っちゃいそうな気がするんです。

普通、こういう表が出たら、数字的な人だと何でグラフであらわさないの、グラフであらわしてよという話になって、そうすると、ああ、こういうふう

に上がっているんだねという程度で、ああ、そうとなっちゃうんですけど、それは僕は必要ないと思っているんです。それよりも、どういう工夫をして、どういう目的を持ってこの活動をしたかという工夫のところと、それがうまく適合して反応されているのか、人数に反映されたとか、そういうところは今後分析なさるといいのかな。

例えば、19年度の「CIRCULATION」のメディアにのった数はものすごいと思います。でも、これと同じように、今回の所蔵品展のⅠとか、こういうものに対して、いつもの所蔵品展とどれだけ違うぞというアピール力をもってすれば、もう少し所蔵品の持っている価値というものも見えることができるのかなという気が。所蔵品展のときには、急にふーっと肩の力が抜ける雰囲気、忙しいのご苦労さまでしたと所蔵品展が始まるんじゃないくて、所蔵品展のところでもメディア対応力だけは何とかやってほしいと思います。

**【千村委員】** それに関連して、私もこれを見て、所蔵品展のⅠとか、所蔵品展のⅡとかというので思ったんですけど、中村研一という人が画家としての画境の歴史の中で、あの作風がどうなったとか、生活の上でどういう変化があったとかいうことがあまりまだ私はよくわかっていないんですけども。画家はものすごくかき方が変わってきたとか、考え方が変わってきたとか、いろんな人生の変化みたいなものがあるわけなんですけど、そういうのをおもしろいなと思って「日曜美術館」なんか見ていると、今までの画風とすごく違って、ものすごい変化がどうして起こったかみたいな興味がわくんです。

この所蔵作品展も、今まで花とか、戦争の作品とかというものが一応クローズアップされてきていましたけれど、今度の作品展もテーマといたらおかしいんだけど、みんなが知りたいなと思うような言葉であらわしていただくとおもしろいかなと思うんです。そうすると、既成概念みたいなのができちゃって、もっと真っ白な広い考えで絵を見るということが必要なのかもしれませんが、何か飛びつく言葉みたいなのが添えてあったらいいかなと思います。それは、調査したり、まとめていらっしゃる人がそういうことに気がつくと思うので、私たちは全然専門的じゃないのでそういうのはわからないので、できればそういうのをやってもらいたいなと思います。

**【鉄矢委員長】** 昨年度は「花々」とか、ここに書いてあるように「中村研一の見た風景」とかいうサブタイトルがついていたんですけども、今

年度はどうなっているんですか。

**【事務局(天野)】** 今回の所蔵作品展Ⅰについては「人と芸術」ですね。

**【鉄矢委員長】** 「人と芸術」、すごく漠然としてる。「人と芸術」といったとき、そのタイトルで、何だろうと思ったんだけど。(笑)

**【松山学芸員】** 今回は、かなり網羅というか、研一の作品のテーマごとにポイントを絞って、今までやってきたみたいな花だとか、風景とかいうのではなくて、うちの持っている所蔵作品の中で、研一の生涯というのはおかしいですけど、全体像を見てみようみたいな感じにはなっていて、なのでサブタイトルをつけがたかった……。

**【鉄矢委員長】** 「中村研一という人」と芸術なんですね。

**【松山学芸員】** そうなんです。ただ、そこにはつけ加えたいプランっぽいものが別にありまして、館蔵品の中に研一が関係を築いていった先生方だったりですとか、友人たちだったり、そういった研一が所蔵していた知り合いの画家たちの作品というのが幾つかあって、いい作品とは言いがたいものもあるんですけども、研一を通して見るから見られるものというの、せっかく持っているのをそれを出して、ヒントにしながらか研一を別の視点から見てみようという感じを出しています。

**【鉄矢委員長】** 毎回所蔵品展に来る人が、来たかいがあるような感じの、コレクションできるチケットじゃないですけど、まず「花々」は見たよ、次は「風景」を見た、今度は概観したよと何か確認できるようなものがあると、リピーターが……。

**【松山学芸員】** 毎回パンフレットを発行しているので、花のときもカラーのすごくきれいなものがありましたし、風景のときも結構大き目の作品解説もありましたし、今回も小さいですけど、作品リストとかちょっとしたコメント集のようなものはありますので、それは毎回。

**【鉄矢委員長】** それをためるときれいで楽しいですよというのを、何かそういう……。

**【松山学芸員】** サイズは毎回ばらばらな感じがあるんですけど。

**【鉄矢委員長】** そうなんだ。その辺の工夫もあるとおもしろそうな気がします。

**【松山学芸員】** そうですね。通しでできるとよかったですけど、担当も変わってしまうというのがあるので、続くかどうかかわからないです。

**【鉄矢委員長】** ほかにご質問は。

私からですけど、子どものワークショップというのは、何人募集の予定だったんでしょうか。

**【横田学芸員】** 各10名ずつです。

**【鉄矢委員長】** もう1つは、鑑賞教育のほうで、やった内容のところで、実際、ここの鑑賞の導入というのは、学芸員が、場所は美術館のどの辺でやるんですか。

**【横田学芸員】** まず、美術館のエントランスの前に子どもたちが集合いたしますので、その場所で説明します。

**【鉄矢委員長】** 建物に入る前のポーチの中ですね。

**【横田学芸員】** はい。

**【鉄矢委員長】** わかりました。学芸員が少ないのと非常勤というのが一番うちの美術館の問題だと思うんですけども、世田谷美術館のうまいところは、学校に行って導入をして、来週、ほんとうに行くんだよとやっているのを聞くと、いいなと思うんです。

**【横田学芸員】** それができるとほんとにいいとは思いますが。

**【鉄矢委員長】** 皆さんも多分やる気があるんだろうけれども、いろんな制約があるので、早くその制約が外れることを、それから学芸員の制約が外れることを切に願う次第ですけど。わかりました。

宮村委員、何かございましたら。もう少し後からでも。

**【淀井委員】** 今の20年度の展示計画案で、調査研究に時間をかけるということなんですけど、つまりは企画展を減らしているということは、予算をこっちに入れるということなんです。予算の問題ではなくて？

**【事務局(天野)】** ですから、その辺のご理解をいただくのに、予算の部分の説明を並行していかないとわかりにくいかなということで、先ほど説明させていただいたんですけども。

その辺についてふれさせていただきますと、実は、先ほど松山学芸員が話したように、所蔵の作品の整理ができていないというのが実態としてあります。それらをしていく、つくっていくんだということを前提に20年度の予算要求をした中で、調査研究費ということで、例えば今回については、福岡の宗像市にある生家美術館にまず行くのが第一歩だろうということで予算要求をさせていただいたところ、要求額が全額ついたということがございま

す。

それから、これは美術業界では当たり前なんだと私も予算要求のときに学芸員のほうから聞いて、ぜひとも必要だということで、例えば、企画展を実施するに当たって、借りる先の美術館に調査研究でまず1回は訪問する。あと、作品を借りに行く、それから返しに行くときに同行するんだということも今回要求をさせていただいて、それも満額ついたということです。財政のほうに私どもで説明したのは、そういう実態があってこれは最低限必要なんだということで、調査研究をして作品のリストをつくる。それが最低限で、それをするには数年必要です。そういう調査研究費を毎年要求させていただきまよということで説明してつけていただいたと私どもは理解しておりますので、例えば、作品をほかの美術館にお借りする、あるいは将来ほかの美術館から貸してくれということが多々あると思うんです。そうしたときに、所蔵作品リストのいわゆるカタログを見て、その中で借りる作品を選ぶということがスタートなものですから、そのようなことを一番基本的な形で今回要求させていただいております。

そういう意味で、これまでも調査研究をしてきているわけですがけれども、さらに今回の目的に沿った形でやる必要があるぞということで、2年間やってきたことを踏み台にして、さらにいい美術館にしていくためのステップアップするための準備行為という形でご理解いただければなということで、今回、作品あるいは所蔵作品Ⅲということで企画展を減らした分、そういう基本の調査のほうに力を入れていきたいというところがございます。

**【淀井委員】** それはいいと思いますけれども、そうすると、一般には美術館というと展覧会も見たい、企画展も見たいという気持ちがあると思うんです。美術館としての調査研究というのは当然のことだと思いますけれども、外側から見るとどうなんですか、活気が違ってくるといふ気もしないじゃないですけど。別に文句を言っているわけじゃないんですけど、ちらっと思って……。

**【鉄矢委員長】** 私も、だから、活気が少し表現しにくいほうに見えるんだったら、所蔵作品展を盛り返すような、メディアにもっと露出させていくとか、キャッチーなコピーだけでごまかすわけじゃなくて、さっき学芸員さんがおっしゃったように、こういうものを選ぶ、選んで人に見せるという判断がものすごく大事で、その部分でもっと勝負に出た切り口をもっとメディ

アに出していくべきなんだろうなと思います。それが企画展でやるのと同じだと思うんです。

**【事務局(天野)】** 来られる方、今回、企画展が秋から年度末にかけて2本続いたわけで、堂本印象の場合は、中村研一と旧知の仲ということと日本画ということから、お客さんも比較的それに対していい印象があったんですけども、「Art-Full 2」の場合は現代作家ということで、「Art-Full 2」のときに、お客さんから、所蔵作品展はやっていないんですかと言われたことが多々ありました。

例えば、19年度の段階でも、所蔵作品展を1階の展示室でやっているのとあわせて2階にも常設の展示をしているんですが、特に企画展なんかの場合ですと、やっていないんですかという問い合わせがありました。それは、2階は常設で展示しておりますので。ただ、所蔵作品展を下でやっていたときは、どうしても2階に展示している数が少ないということはあるんですけども、そういうことでは、来られる方が、中村研一の作品を見たいんだという思いの強い方が結構いらっしゃるなと私は事務をやっていて感じたことがございます。

先ほど、委員長がおっしゃった右肩上がりのデータの分析なんかについても、どういう分析ができるのか、正直なところ今、現時点では出た数字をそのままお出ししていると。リニューアルオープンして、知名度が上がってきているということで右肩上がりだと思うんです。将来、例えばそれがどういう形でもって展開していけるのかというのは、今後の大きな課題なのかなと事務担当としては感じています。ですから、それをどのように分析して、どのように展覧会のほうに反映していくのかというのは、今後の当美術館の大きな課題の1つかなと思っております。

**【千村委員】** 去年、夏だったかな、松本市立美術館で「絶筆展」というのがあって、私は夫の実家があちらのほうなので、たまたま前を歩いて「絶筆展」って何かと。時間がなかったんですけども、走って行って、走りながら見てきたんですけども、絶筆がわかっている画家もいるんだけど、わからない画家についてこう思われるという解説がついていて、そういう企画展というのは、学芸員の方が企画をされるときに、ほんとうに大変なことで、いろんな絵について知らなければいけないし、いろんな美術館の所蔵のものについて知らなければいけないし、企画展というものはほんとうに大変なん

だなということであれを見て感じたんですけれども、自分の美術館の所蔵作品だけでもまだはっきりしない中で、企画展をやっていくというのはなかなか、皆さんフルタイムで学芸員をして勉強して行って、積み重ねてとなるのかなと思ったりするんです。

**【鉄矢委員長】** パートタイムで雇っているから、すごくその辺の自由度が弱くなると思いますしね。

**【千村委員】** 余談ですけれども、中村研一の絶筆という小さな額に入ったものが置いてあって、しかも入ったところのわりと正面に置いてあって、私は感動的でした。去年の夏でしたか、はけの美術館所蔵と書いてあって。

**【鉄矢委員長】** 今後も運営委員会としては、ぜひ常勤学芸員という普通のちゃんとした美術館なりの、市政が難しいのは、大変なのはよく存じ上げますけれども、でも、美術ってそんなにもうかるものでもないけれども、必ず役立つものだったり、振り返ったときに文化になっているのは一番美術だったするので、この辺は運営委員会としてもぜひとも館長にお願いしておきたいと思うんですけれども、皆さんもそう思っていると賛同していただけますね。

**【淀井委員】** できないと言われちゃえばそれまでなんですけれども…。

**【小柳委員】** ここでよろしいですか。学芸員の賃金が非常に安いものがあると。今まで18万4,900円だったものが、それでは世間的にも、非常勤のランクづけでも低いということで、20年度の予算要求のときに申し入れまして、学芸員の金額を20万1,700円に改定していただいたということでちょっと一歩前進、徐々にではありますけれども、そういう経過がございしますので。

**【松山学芸員】** それに関して言わしていただければ、ことは3人いるんですよ。3人でやっていた仕事を、来年は2人になってしまうので、実質的には予算としてはかかっている金額は少なくて済むということになるので、3人分が2人分になるということで、1人分の賃金上がるというのは当然の計らいというか、このぐらいのことはやっていただかないと仕事にならないと思いますので、そこのところもさらに要求していただくのが大事なのではないかと思います。

**【小柳委員】** そうですね。だから、一遍にはちょっと、難しい事情も

抱えていますものですから、少しずつは努力はしていきたい。

**【鉄矢委員長】** 館長の交渉術に期待します。

**【淀井委員】** 今回の3人が2人にとというのはどういう事情なんですか。

**【小柳委員】** スタート時が、18年度は2人の学芸員でスタートしているんです。それから19年度、急遽いろいろな事情がございまして、それだったらということで交渉しまして、19年度については3名体制で臨むという許可が得られましたので、19年度はそういう経過でやっています。

それで、20年度は戻ると。19年度のみ3名体制でいくんだよということでの約束事項でしたので、ここで20年度については2名体制で取り組むということがありました。

**【鉄矢委員長】** 今回の第2回の議事録の15ページのほうにも、第2回するときも出ています。私の話なのか。昨年度の委員会の終わりの段階で3名体制を要求しようという形で話は進んでいましたけれども、特別でもいいから、3名だから、少ししばらく様子を見ましようということになっていますけれども、またしばらく様子を見たら2名に戻っちゃったんだったら、やっぱりしっかり3名を要求してもらおうという話に持っていけないとおかしいのかもしれない。

それから、非常勤じゃなくて常勤にしていくというのを、議事録に載るといこと自身からももう少しステップアップしていただいて何とか動いていかないと、ものを借りるのにも借りにくいと思いつつと動くのはつらいでしょうし、毎年更新の学芸員はあり得ない。

**【千村委員】** そうですね。市民の文化的レベルというか、基礎レベルとも言えると思うんです。だから、ほんとうは学芸員の方が豊かに研究に没頭できる環境というものが一人一人の市民に反映してくると思いますね。

**【鉄矢委員長】** では、次第の1、平成20年度展覧会についてはこれで一応終わりにします。

(2) その他。事務局のほうから。

**【事務局(天野)】** では、その他の中で、まず平成20年度の予算について説明させていただきます。先ほどちょっと導入の部分を説明させていただきましたけれども、今回、3月議会で要求して内示をされたものが審議され、24日の議会の最終日に議決され、これが確定したということで、20年度



の4月1日からその予算を執行するという形になります。

それで、すべて説明をしますと、長くになってしまいますので、かいつまんでポイントのところを説明申し上げますと、例えば……。

**【鉄矢委員長】** 右肩にページが振ってありますね。

**【事務局(天野)】** 重要ポイントのところから説明すればいいんですけど、それだと前へ行ったり後ろへ行ったりがありますので、前のほうからご説明させていただきますと、6ページの運営に関する業務の中で、美術館の備品が不十分な部分がございます。それで、今回備品を4つ要求いたしましたところ、4つのうち3つを認めてくれたということで、いわゆる財政のほうも美術館運営に対する理解が少しずつ変わってきたのかなと。私が去年の4月に事務として担当したときに、私自身も右も左もわからないということとあわせまして、19年度の予算を見たときに、ほんとうにこれでいいのかなという思いがございました。それで、今回の要求に関しては、学芸員のほうにどのような内容を要求すべきなのかということをしてレクチャーを受けて予算要求をしたということで、備品がついたと。

それから、維持管理する中で、例えば額縁だとか、当然絵を飾るのに必要な部分なんですけれども、そういうものの要求も今回して、幾つかついたということがございます。

それから、維持管理のほうなんですけれども、はけの森美術館の維持管理に要する経費の中の……。

**【鉄矢委員長】** 何ページですか。

**【事務局(天野)】** ページ数が事業ごとになってしまっていますので、連番が振っていないので申しわけないんですけれども、まず、事業が、06のはけの森美術館の最初が美術館の運営に要する経費なんですけど、その次の07のはけの森美術館の維持管理に要する経費の中で、実は、私どもの収蔵庫の空調の状況があまりよくないということで、空調のパッケージの交換を要求いたしました。そうしましたら、当初の予算どおりにはいかなかったんですけども、一応約400万の工事費の内示をいただいています。これについては、市民の大事な財産をかびだとか……。

**【鉄矢委員長】** 07というものの4ページですね、これ。わかりました。

**【事務局(天野)】** 5ページになります。07の事業の維持管理に要する経費の中の5ページです。一番下のところで、工事請負費で特別収蔵庫のエ

アコンのパッケージ交換ということで、いろいろと改修をしていただきました。これは、あまり説明してもわからないと思いますけど。

**【鉄矢委員長】** いや、ポイントというのがあと幾つあるのかわからないんですけど、とりあえず、これが10個あったら追いつけなくなりますけど、3つぐらいなら追いつきます。

**【事務局(天野)】** それから、8の美術館の事業に要する経費の中で、今までですと、例えば、企画展等で他館から展示するに当たって指導していただくために来館いただくんですが、19年度以前は予算化されていませんでした。20年度について、展示指導に対する謝礼とか、展示用の資料の提供者への謝礼とか、そういうものが、本来必要だったのについてなかったものが今度はつくようになったということでございます。

それから、先ほど調査研究費と私どもは申し上げましたけれども、事業に要する経費の中の4ページのところで、特別旅費ということで、宗像市とか、あるいは今回松本市美術館のほうからお借りするに当たっての学芸員の出張費等がしっかりついたということでございます。

あと、デザイン関係の委託について、これまで印刷の中に入れるとかということがあったんですけども、デザイン費は、企画展については認めてもらったということでございます。

予算要求してつかなかったんですけども、例えば、展示をする際の照明の委託についても、今回、委託費を計上したんですが、これについては残念ながら却下されました。来年以降、必要経費だということで要求していく予定です。

それから、所蔵作品のマットの加工作成委託料についても予算要求して、つけていただいているということでございます。

細かいところをいうともっと時間的にかかるんですが、一応ポイント的には以上でございます。

**【鉄矢委員長】** ありがとうございます。事務局さん、それから学芸員の皆さんの並々ならぬ活動の成果で、やっと美術館の体裁らしい項目が予算で認められるようになってきたということは喜ばしいことですが、それが全然十分じゃない部分も、まだまだ足りないものもあると思います。今後とも、運営委員会が全員美術館の専門家なわけではないので、こういうものが足りない、ああいうものがないとどうしても困るというものは、我々の

耳に入るようにぜひしていただきたいと切に願いますので、館長、よろしくお願ひします。

その他、ほかに何かございますでしょうか。

**【事務局(天野)】** そうしましたら、引き続き、一番最後の資料のところで、19年度のはげの森美術館の入館者数、物品販売及び売り上げ等の関係について、これは第1回目、第2回目のときの参考資料としてお出しした流れでございますけれども、1枚目の部分が月ごとの入館者数、入館料、それから図録等の販売の調べでございます。これが、1年間、4月1日から3月……、最後の一番右の合計の左側のところに3が2つあって、一番右のほうの3がゼロになっていますけれども、これにつきましては、あしたから始まる所蔵作品展Ⅰの入館者数の数字がここに入っているということで、現時点ではゼロとご理解いただきたいと思ひます。

ちなみに、有料、無料の入館者数で、トータルして7,293名ということでございます。それで、観覧料等の売り上げが合計で180万6,000円あった。売り上げが目的で開館しているわけじゃないんですけれども、一応こういう数字が出ております。それから、図録等についてもそこそこ売れている、あるいははがき等についてもそれなりに売れている。

第1回目のときだと思ひますけれども、淀井委員からこのデータを見ると、どういふはがきがどのくらい売れているということで、おもしろいねというご指摘がありましたけれども、今度、例えば次のはがきを作成、印刷、増刷するに当たってもこういうデータを使っていければなと思ひております。

それから、2枚目でございますけれども、これは1枚目の数字をもとに各展覧会ごとの入館者数をまとめたものでございます。これは内容についてはごらんいただければと思ひます。

それから、3枚目なんですけど、第2回目のときに、「堂本印象美術館展」で薩摩学芸顧問のご尽力で、NHKの「日曜美術館」のアートシーンで放映された。放映されたのが12月2日なんですけれども、その前後でどのくらいの変化があるかということで参考にこのデータをつくってみました。一応11月22日から最終日の12月9日までの間に入館者数で、先ほど委員長のほうから折れ線グラフなり何なり、グラフで表現できないのかということなんですけど、私の技術が至らないものですから。今後そういうことで、わかりやすいデータをつくっていきたいと私も肝に銘じておりますので、それ

についてはよろしく申し上げます。

**【鉄矢委員長】** 意図が間違っただけだと困るんですけども、折れ線グラフになるとその数値を追っかけてしまいますので、必要のないものは折れ線グラフでは出さなくて構いません。美術館の学芸員、館長も含めて皆さんが、この数値をとにかく基準としてすべてを判断するんだというんだったら、折れ線グラフで我々もそのための話をするんでしょうけど、美術をそれではかるのは私はおかしいと思っていますので、折れ線グラフは技術が伴ったときに楽しみとしてやっていただければと思います。

**【事務局(天野)】** ただ、いわゆるメディアにのったことによってどのぐらいあるかというのは、そういう意味ではこれの分析はおもしろいかなということで、今回参考に提出させていただきました。ちなみに、放映日の前の日が35人だったのが、いきなり73と倍に増えたということで、NHKなり、あるいはメディアの力というのは偉大だなと感じたところでございます。以上です。

**【鉄矢委員長】** ありがとうございます。  
その他、ほかにございますでしょうか。

**【事務局(天野)】** ちょっとよろしいですか。実は、この運営委員会が3月31日で第1期目の任期が切れるところでございます。それで、私ども事務局のほうから継続して委員をお願いしたいということで承諾書をお送りして、全員から承諾書をいただきましたので、2期目も引き続きお願いしたいということでございます。一応4月1日付の委嘱状を、後日、どのような方法でお渡しするかは決まっておられませんけれども、4月1日以降、2期目の委員として引き続きよろしくをお願いしたいということで、事務局のほうからお願いとご報告です。以上です。

**【鉄矢委員長】** その他、いかがでしょうか。

私からですけども、今しゃべりながらも、数値だけが目標だけじゃないというんだけれども、どれだけ中村研一が、例えば市民に認知されるのかというのが、何気なく美術館のアンケートみたいなものを、普通に小学校6年生の卒業時にかけて、最後に「中村研一って知ってる?」「知らない」と多分いっぱい来ると思うんです。でも、それを1個持つておくだけで、今後5年間とか活動した後に、もう1回それをやったときに、6年生がみんな知っているよといったら、多分活動の数値化したものとしては、僕は悪くない数

値だと思うんです。やった活動としても、それが効果として、知っていると答えてくれればいいんだったら。

それでも、数値として出さなきゃいけないと美術館が市からせつつかれているときとしては、何か数値で出すときも、入館者数よりも、そういう小学生に対する鑑賞授業をずっと積み重ねていくとか、そういうことをやっていったときに、最後の6年の卒業時とか、中学3年生の義務教育が終わるときに、小金井市の学校出身であれば、そのぐらい知っているよという数値化というのはあり得るのではないかと。先ほどの入館者数の数字のグラフなんていう話をしているときに思いましたので、そういう工夫も、始まってすぐにデータをとって、それから何年後かにデータをとるとずるいと思うんですけれども、とりあえず3年たったんで、3年後ぐらいに一たんっておくと、また5年後ぐらいには数値的には非常に効果の出やすいものかなと思います。

そのほか、ございませんでしょうか。

なければ、平成19年度第3回小金井市はけの森美術館運営協議会のほうを閉会させていただきたいと思います。ありがとうございました。

— 了 —